

# 四明会たより

京都大学農学部四明会 2016年8月発行

## ごあいさつ

四明会会長 宮川 恒  
(農学研究科長・農学部長)

四明会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本会の活動に対する日頃からのご支援ご協力に対してお礼を申し上げます。

さて四明会は本年も学部319名、大学院修士課程336名、博士後期課程編入65名の新会員を迎えました。またこの4月には念願の農場移転が完了し、実習教育と研究のいっそうの充実をめざして新しいスタートを切りました。2009年の移転決定以来7年の時間を要しましたが、おかげさまでたいへんすばらしい施設ができました。去る6月17日には現地に山極総長、文部科学省、京都府、木津川市ほか多くの来賓の方々にお越しいただいて記念式典を挙行し、たくさんのお祝いの言葉と激励のメッセージを頂戴して感激したところです。この間、会員の皆様から力強いご支援をいただいたことにあらためてお礼申し上げます。

移転先は、京都府の南端に位置する木津川市（その南は奈良市）で、JR奈良線、学研都市線、大和路線が合流する木

津駅から徒歩20分のところにあります。一帯は産学官の協力と連携に基づいた新しい拠点づくりを掲げる関西学術文化研究都市（けいはんな学研都市）の木津中央地区と呼ばれる地域で、吉田キャンパスからは直線距離で約30キロ、宇治キャンパスからは約20キロ離れています。総面積は約25ヘクタール。甲子園球場のおよそ6個分に相当するそうです。穀物、果樹、野菜、花卉など農作物全般の生産をおこなえる水田、畑、温室を備え、実習教育の拠点としてのみならず、日本を代表する総合研究拠点として次世代型農業技術の開発と実証研究に取り組むことになっています。

特に化石エネルギーや電力への依存度が高い現代農業において、太陽光発電を積極的に取り入れ、再生可能エネルギー利用に基づいた環境負荷低減型グリーンエネルギーファームの構築を大きな目標としています。また高度なセンサー技術や機械制御、ロボット技術を取り入れた生産性の向上と生産システムの効率化・強化を実現する技術開発にも挑戦し、さらには関西では初となる遺伝子組換え圃場の設置により、アグリバイオ研究の先端施設として他大学・研究機関との共同利用も進めていく予定です。これからの発展にどうぞご期待下さい。

日本の国立大学法人は今年から第3期中期目標期間に入りました。文部科学省はそれぞれの大学の強みや特色を生かすためにメリハリのある支援を行うと言うものの、国の財政がきわめて厳しい状況にある中で、結局はほとんどの大学で教育研究活動の維持に必要な「生活費」が減少しています。どこも予算の削減には悲鳴を上げている様子で、今後何年か人事を凍結すると発表した大学もあります。このような状況は大学ランキング機関にも知れるところとなり、先日発表されたTimes Higher Educationのランキングでは「日本の大学は20年間にわたって資金の制約を受けており、世界の大学との競争や国際化のための支援が少ない」ことを理由にほとんどの大学が順位を落としています。



## 会費納入のお願い

平成28年度(28年4月～29年3月)四明会年会費1,500円を同封の払込取扱票で納入下さるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用下さい。

京都大学農学部四明会事務局  
606-8502 京都市左京区北白川追分町

## 「四明会たより」への寄稿

「四明会たより」を年1回発行しております。今後も紙面の充実を図りたいと考えております。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えておりますのでご寄稿をお待ちしております。

(締切随時、400字程度、写真があれば添えて下さい)

E-mail: shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

とはいえ、単にお金をかければよいというものでもないのは、何年か前に大金を費やして選手の補強をしたのに最下位に沈んでいるパ・リーグの某チームを見れば明らかです（当時の補強選手は今もう一軍にいません！）。構成員それぞれの強いモチベーション、がんばろうという気持ちが何よりも大事でしょう。そしてそれを支える重要な要素が多くの卒業生とのつながりであり、そこから得られる有形無形の支援だと思えます。この点で四明会は全学でも有数のすばらしい同窓会組織であり、私たちは皆様から大きな力をいただいています。日頃からのご協力にあらためて感謝申し上げますとともに、大学が厳しい環境におかれている中、今後なおいっそう強力なお力添えをいただきますようお願いいたします。

## 同窓会たより

### ◎農学科（KND）

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年は木津市の新農場が完成し、新体制の下でのスタートとなりました。

ゆりの木会は4月21日に本校北部キャンパスにて恒例の新入生歓迎会を行い、多くの新会員を迎えて盛会となりました。7月2日には、新農場において記念すべき初の田植え会および親睦会（バーベキュー）が行われ、例年以上の多数の参加がありこちらも大盛況となりました。

この一年間にも、複数の教員の異動がありました。平成27年9月をもって作物学研究室の本間香貴先生が東北大学農学部、平成28年3月をもって育種学研究室の築山拓司先生が近畿大学農学部へ転出されました。

最後になりましたが、本年も会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（田中 佑）

### ◎林学科（クローネ会）

クローネ会のみなさまにおかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成27年度の森林科学専攻（旧林学科）における教員の異動は以下のとおりです。森林資源学講座森林育成学分野准教授の安藤信先生が定年退職されました。杉村和紀先生が生物材料機能学講座複合材料化学分野の助教に着任されました。

平成27年度京都大学森林科学公開講座が11月1日に行われました。「森林女子会！ 女性研究者の観る 森と木」と題し、ユニークな研究を行っている5人の女性研究者による最先端の研究がやさしく紹介されました。会場となった宇治キャンパス生存圏研究所 木質ホール3階大会議室の定員は80名で、女



性はもちろん男性の参加も可能でした。公開講座のテーマは、こけら葺屋根の話、土砂災害の予測について、古都の古材について、熱帯林の森林生態系の話、森のなかの虫の話など多様でした。

末筆ながら、今後のみなさまのますますのご健勝とご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

（伊勢武史）

### ◎農林生物学科（南窓会）

南窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年3月で植物病理学研究室の奥野哲郎教授と昆虫生理学研究室の佐久間正幸教授と栽培植物起原学研究室の河原太八准教授が定年退職されました。あらためまして三先生方には、長年に渡り旧農林生物学科・専攻および資源生物科学科・応用生物科学専攻の発展のために多大の貢献をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

これに伴い、植物病理学研究室では高野義孝教授、昆虫生理学研究室では大門高明教授、また栽培植物起原学研究室では寺内良平教授がそれぞれ4月1日付けで着任されました。高野教授は本学の植物病理学研究室出身で准教授からの昇任です。大門教授は東京大学農学部生産・環境生物学専攻出身で、（独）農業生物資源研究所の主任研究員、東京大学大学院農学生命科学研究科の准教授（併任）などを経てのご着任です。また寺内教授は本学の実験遺伝学（現：植物遺伝学）出身で、岩手生物工学研究センターのゲノム育種研究部研究部長を経てのご着任です。

教授が一度に三人も新しくなるというのは、旧農林生物学科の長い歴史の中でおそらく初めてのことはないかと思います。一気に若返った観のある新体制の下で、教員一同力を合わせて各研究室、学科、学部さらには大学の益々の発展のために精進する所存でございます。

会員の皆様には、お近くにお越しの際にはどうぞお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしております。

(海道真典)

### ◎水産学科（緑洋会）

緑洋会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝の御事とお喜び申し上げます。

舞鶴水産実験所の緑洋丸が新しく建造され、3月10日に山極総長をお迎えして緑洋丸のお披露目式を行いました。新船は全長17.7m、総トン数14トン、定員26名、734馬力のエンジン1基を搭載しています。旧船に比べて全長が長く、甲板は広がったものの、船室が小さいため定員はやや減りました。

6月11日には関東緑洋会の方々を中心に50歳代から80歳代の22名の会員が舞鶴水産実験所を訪問されました。実験所の鈴木啓太助教の案内で新しい緑洋丸や標本館の見学を行いました。梅雨の合間の晴天の下で懐かしいキャンパスを散策しながら思い出話を花を咲かせました。

来年は水産学科創立70周年です。京都に集まっていただけの機会を作りたいと考えています。

最後になりましたが、緑洋会会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(荒井修亮)

### ◎地域環境工学科（洛水会）（旧農業工学科、旧農林工学科）

洛水会の会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄でご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年の四明会たよりでの報告以来、教員の人事異動が1件ありましたのでご報告いたします。平成27年11月1日に農村計画学分野の橋本 禪准教授が、東京大学大学院農学生命科学研究科 生圏システム学専攻 緑地創成学研究室の准教授として移られました。橋本先生におかれましては、今後のさらなる活躍が期待されます。

先日、本会をステアリングする総会ならびに講演会を平成28年5月21日（土）に農学部総合館で開催しました。それに続いて夕刻からは時計台下のフレンチレストラン ラトゥール（La Tour）にて懇親会を開催いたしました。講演会では神戸大学の庄司 浩一准教授が「有機栽培に利用可能な新たな機械等の開発と今後の展望」というタイトルで話題提供して頂きました。総会では星野 敏前会長のもと、以下の幹事による新体制が承認され、今後の洛水会の運営見直しの方針に関して議論されました。その方針に基づき、具体的な改革案を本年1年間かけて議論し、来年の総会へ提案する予定です。

会 長：近藤 直

事業幹事：法貴 誠、近藤 直

庶務幹事：森田敏夫、飯田訓久、中村公人

名簿幹事：渡邊泰浩、村上 章、中嶋 洋

会計幹事：岩間憲治、竹内潤一郎

会計監査：小田一彦、西尾吉生

学生幹事：各学年より1名

四明会担当：近藤 直

今後の事業計画としては、毎年と同様に名簿の発行、学生交歓会、卒業祝賀会、来年の新入生茶話会等を予定していますが、名簿の発行等の見直しによって、学生のスポーツ大会をはじめとして、会員相互の縦のつながり、横のつながりを保ち、会員へのサービスならびに交流が叶うような仕組みができればと考えています。近年急増している留学生会員に関しても、卒業後の新たなネットワーク構築を検討する時期に来ているように思います。みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(近藤 直)

### ◎林産工学科（ユナリグナ）

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、杉村和紀先生が複合材料化学（旧木材加工材料学）分野の助教に着任されました。また、生物材料設計学（旧木材工学）分野の村田功二先生が講師に昇任されました。

さて、同窓会活動に関しましては、昨年、1967年に創立された旧林産工学科が創立50周年を迎えるにあたり、10月11日に「林産工学科創立50周年の集い」が開催されました。農学部総合館にて記念講演会「林産工学科の最近の研究について」が開催され、時計台の国際交流ホールにて記念懇親会が盛大に開催されました。学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行もここ10年ばかり止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ（URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>）につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

### ◎食品工学科（中陽会）

中陽会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年3月24日に学部・専攻修了生の歓送会が楽友会館において開催され、食品生物科学科4回生36名、食品生物科学専攻修士課程27名、同博士後期課程3の新し

い門出を祝いました。一方で、本年4月7日に同じく楽友会館において中陽会総会を開催するとともに、新入生の歓迎会を開催しました。新たに食品生物科学科1回生36名、食品生物科学専攻修士課程32名、同博士後期課程4名を迎えることができました。いずれの会も盛況で、学生と教職員の懇親を深める大変よい機会となりました。特に、若い感性と活力をもつ新しい力が加わることは、中陽会の伝統を更に発展させる上で、大きな喜びであります。

教職員の異動としましては、昨年10月1日付けで生物機能変換学分野教授として、橋本渉先生が昇任しました。本年4月1日付けで食品分子機能学分野特定助教として、野村亘先生が採用されております。新しいメンバーとともに教育・研究の更なる発展に日々努力しているところであります。

教育研究機関をはじめ、各界でご活躍の会員の方々と情報を、親睦を深める組織としての中陽会をますます発展させていくため、今後とも皆様には格別なるご支援とご協力、そしてご指導を賜りますようお願いいたします。末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

(大日向耕作)

#### ◎畜産学科 (はくび会)

はくび会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系(旧畜産学科)の分野一同、元気に研究・教育に励んでいます。以下は、本年度はくび会会長池田祐一君(生体機構学分野:修士2回生)からの活動報告です。

昨年度の活動としては、平成28年3月23日にはくび会の総会を開きました。総会後に応用動物系5分野(動物遺伝育種学・生殖生物学・動物栄養科学・生体機構学・畜産資源学)卒業生・修了生のための送別会が開催されました。5月18日から31日にかけて毎年恒例のソフトボール大会が開催されました。優勝は、生体機構学と動物遺伝育種学の連合チームでした。11月にはNF前夜祭への出店を予定しています。ぜひともお立ち寄りください。また、はくび会では農場を利用し野菜栽培をしています。今年もおいしい野菜をたくさん収穫することができました。はくび会ホームページ(<http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)も随時更新していきますのであわせてご覧ください。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの節は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

(熊谷 元)

#### ◎熱帯農学専攻 (熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

旧熱帯農学専攻関連の教職員の異動に関しまして、本年3

月31日付で鱈坂哲朗先生が定年退職されましたので、ご報告申し上げます。

旧熱帯農学専攻では、研究のフィールドを求めて海外に渡航する院生や教員が多く、その経験や実績を活かして現在でも多くのみなさまが海外でもご活躍されていることと思います。海外で身の安全を守ることの重要性はかつていまま変わりませんが、このところ物騒な事件があつても絶たないような気がいたします。どうかみなさまには、安全には十分にご注意いただきたいと思ひます。

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

#### ◎農林経済学科 (洛友会)

洛友会の会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年度より引き続き洛友会の四明会常任委員を担当しております。よろしくお願い申し上げます。

昨年の四明会たよりのご報告以来、当専攻の教職員の異動等に関しまして時系列でご説明させていただきます。

昨年6月1日付で秋津元輝氏が農学原論分野の教授に昇任されました。7月1日付で寄附講座・農林水産統計デジタルアーカイブ講座の特定助教として池田瑞穂氏が着任されました。9月1日付及び11月1日付で森林経済政策学分野の特定研究員として黒川瞬氏、藤野正也氏がそれぞれ着任されました。そして、本年3月1日付で伊藤淳史氏が比較農史学分野の准教授に昇任されました。また、平成19年4月1日に専攻において初めて創設されました寄附講座の食と農の安全・倫理論講座が3月31日付でその役割を終えて閉じられました。同日、生物資源経済学専攻司書室の再雇用職員・脇田正子氏が、また森林経済政策学分野の事務補佐員・井上綾氏がそれぞれご退職されました。脇田氏には専攻司書室改革においてご尽力賜りましたこと、ここに御礼申し上げます。

新年度になった4月1日付で地域環境経済学分野の教授として梅津千恵子氏が長崎大学から着任されました。また、食と農の安全・倫理論講座の特定准教授の工藤春代氏、特定助教の鬼頭弥生氏が農業食料組織経営学分野の特定研究員になりました。さらに同日付で生物資源経済学専攻司書室・再雇用職員として辻井喜代美氏が、森林経済政策学分野・事務補佐員として村上祐子氏がそれぞれ着任されました。

誠に残念なことですが、昨年10月24日、農業食料組織経営学分野助教の田口標氏が入院中に突然ご逝去されました。研究者としてこれからという時に本当に無念です。また、平成19年4月1日より当専攻の寄附講座・食と農の安全・倫理論講座の特定准教授をされていた細野ひろみ氏(平成22年10月1日に東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授として転出)が、在外研究員としてニューヨーク州・コーネル大学におられた昨年11月21日に、調査視察先のシカゴ市内で横断歩

道を歩行中にトロリーバスにはねられご逝去されました。細野氏は2012年度に「食のリスクに関する学際的フードシステム研究」で日本農学進歩賞を受賞されるなど将来を嘱望されておられた研究者でした。天逝されましたお二人に対し心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、国立大学への文科省からの締め付けの一環として取り組まれてきている定員削減を本格的に実行するため、本年度より学域・学系制度が全学において施行されました。農学研究科は4つの学系に分かれることになり、当専攻は農学専攻と共に農学資源経済学系を構成することになりました。今後の人事は、この学系で選考を行うこととなりますが、まだ具体的な姿が見えてきません。

最後に、会員の皆様にはますます縦横の連携を密にしつつ洛友会の発展にご協力くださりますようお願い申し上げますと共に、教室への格段のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(小田滋晃)

#### ◎農芸化学科・応用生命科学科（専攻）（六成会）

六成会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在、農学部応用生命科学科（農学研究科応用生命科学専攻）の11研究室（細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学）と生命科学研究科の2研究室（分子細胞育種学、植物分子生物学）、応用生命科学専攻の7研究室（生体触媒化学、分子微生物学、森林圏遺伝子統御、森林代謝機能化学、バイオマス変換、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理化学研究ユニット」）で構成されています。平成28年度は学部1回生として51名（うち留学生2名）、修士1回生67（2015年10月入学者含）、博士1回生として10名を迎えました。教員の異動も何件かあり、森林圏遺伝子統御に杉山暁史准教授、発酵生理及び醸造学に安藤晃規助教、制御発酵学に齋関淳特任准教授、生物調節化学に宮下正弘准教授（国際高等教育院）、産業微生物学に日比慎特定准教授と竹内道樹特定助教、そして化学生態学に私、森が教授として着任致しました。

六成会の恒例行事である予餞会は平成28年2月16日（火）に百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて盛大に開催されました。また、平成27年度も、春季・秋季とソフトボール大会が開催され、春季は30年ぶりに生体機能化学、秋季は制御発酵学が優勝しました。平成28年度の春季は生体高分子化学と発酵生理および醸造学の決勝戦で、生体高分子化学が優勝しました。この他にも平成27年11月14日（土）には、昨年度の六成会会長宮川恒先生・中川好秋先生の発案で六成会の第1回文化祭が企画・実施されました。ソフトボール以外

の面でも、教員・学生同士の親交がより深まる契機となるだけでなく、様々な才能が六成会に集っていることを再認識できました（写真）。六成会のもう一つの恒例行事として、新入生歓迎会を平成28年4月7日（木）の入学式当日のガイダンス終了後に医学部の南部食堂で行いました。ほとんどの新入生が参加してくれました。

今後とも、六成会へのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

(森 直樹)



第1回六成会文化祭において展示された作品と  
同時に開催された利き酒大会の様子

### 京都大学農学部平成28年度 入学者保護者懇談会のご報告

4月7日の入学式当日の午後、北部総合教育研究棟益川ホールにて、第5回入学者保護者懇談会を開催いたしました。本懇談会は四明会が主催し、農学部新入生がガイダンスを受けている時間帯を利用し、保護者の方々を対象として、農学部の学生生活支援・教育制度、就職状況、学生生活状況を講演会形式で紹介していただきました。当日はあいにくの大雨となり、参加者の減少が危ぶまれましたが、昨年の約1.5倍にも達する158名にお集まりいただき、会場は立見ができるほど盛況となりました。

今年度は、農学部長・四明会会長 宮川 亘先生の挨拶に続き、まず「農学部カリキュラムの特徴（奨学金、留学制度など含む）」（農学研究科副研究科長 裏出令子先生）、「卒業後の就職について」（学生総合支援センターキャリアサポートルーム室長・名誉教授 奥村正悟教授）、および「教員からみた学生生活」（農学研究科副研究科長 村上 章先生）の三題の講演をいただきました。現役演者は新入生

のガイダンスとの掛け持ちで、分刻みの移動を余儀なくされた関係で、三題目の講演に移る前に少し時間ができました、それを利用して、四明会の歴史・現状の紹介、そして会費支払いのお願い等について、本会から説明させていただくとともに、プログラムにはない質疑応答のセッションも行いました。

三題とも保護者にとっても関心の高いテーマで、演者の先生方にはわかりやすくまた親しみやすくお話いただき、参加者はメモを取る方も多く熱心に聴講しておられました。間に質疑応答を入れ、会場の雰囲気が少しリラックスしたこともあり、最後の講演では、笑いも出て演者と保護者が一段と解け合った雰囲気となりました。講演後には再度質疑応答を行いました。質問、意見、要望等がたくさん出され、これまでにない活発な保護者懇談会となりました。

参加者に対するアンケートの回答では、時間的制約に対する不満もありましたが、非常にポジティブな意見が多く見受けられました。このような保護者懇談会は、保護者世代には開催されなかったので大学の対応の変化に驚かれた一方、京都大学でも農学部だけが開催していることに対して称賛のコメントをいただきました。保護者懇談会の盛會を受けてか、今年度入学者の会費納付率はこれまでに比べ約10%程度増加しました。演者の先生方、企画・実行して下さったスタッフの皆さんには心から感謝申し上げます。今後への要望としては、制度・実態説明等でのデータ配布や、二回生以降の学生の保護者を対象とした懇談会の開催要求等が挙げられていました。時間的制約との兼ね合いで、できるだけ要望に応えるよう努力したいと考えております。

現在、四明会はスポーツ大会等の行事を通じて現役学生間の交流を支援しています。今後は、農学部OB/OG、学生、教員、スタッフの交流をより一層支援するよう心掛けていくつもりです。まずは、就職、社会での活動、キャリアパスといったテーマで、農学部OB/OGと学生との懇談の場を提供できるよう試みてみたいと考えております。

四明会副会長 加納健司

## 京都大学農学部卒業50周年記念同期生会報告 (昭和40年卒業)

昭和40年卒業の同期生会は、平成27年11月6日(金)、穏やかな秋晴れの日に開催された。北部構内や京都河原町通りのイチョウ並木は、まだ黄葉にいたっていなかったが、高野川沿いの桜並木の紅葉が美しい時期であった。午前10時に旧演習林事務室で受付開始、参加者は54名であった。

第一部の式典は、旧演習林会議室で午前10時30分に、四明会副会長の藤井義久教授の司会により始まった。まず、世話人を代表して佐々木義之氏(農学)が挨拶された。佐々木

氏は、本会開催に四明会への謝辞、昭和36年入学式に平沢興総長が話された「これからの人生、目標を定めて進んでほしい」などについての思い出や、一回生から吉田南構内で教養の講義を受けた最初の学生であったこと、などが語られた。つぎに、四明会会長の宮川 恒農学部長が資料に基づいて、農学部の学科移行、大学院重点化への改組移行について、説明された。学科が平成7年と平成13年に改組されているが、複雑で理解しにくいものであった。続いて四明会事務局からは、会費納入、名簿購入への協力依頼があった。

式典終了後11時から0時30分まで、学内自由見学で、旧演習林事務室から三々五々、北部構内を通り抜け本部構内に入り、時計台記念館の歴史展示室に立ち寄った。ここでは、第三高等学校からの変遷についての資料をゆっくりと見学することができた。ついで京大正門から吉田南構内に入った。本部構内、吉田南構内とも、在学当時の思い出の建物はほとんど見当たらなかったが、旧吉田寮の木造の建物だけが残っていた(京都大学キャンパスマップには吉田寮の記載はない)。自由見学の後、0時30分に、吉田南構内の正門前に集合した。マイクロバスで、旧演習林事務室に戻り、各自預けていた荷物を受け取った後、懇親会会場のアピカルイン京都(旧京都松ヶ崎会館)に移動した。

第二部の懇親会では、記念写真撮影の後、八つのテーブルに学科あるいは教養のクラスごとに着席した。午後1時より、北尾邦伸氏(林学)の司会で懇親会が始まった。まず、物故者31名の氏名が読み上げられ、黙祷し、冥福を祈った。開会の挨拶は、池田篤治氏(農化)が50年という歳月の重みなどを語られた。乾杯は、遠路、北海道江別市から出席された唐橋 需氏(農工)が音頭をとられた。京大・早大・黄桜などが共同開発した青ナイルというビールや世話人の山本敬治氏(農経)が寄贈された酒などを飲み交しながら、互いに50年ぶりで会った方々との会話が楽しく和やかに弾んだ。会の途中で、各学科の参加者を代表して、堀江 武氏(農学)、安堂 誠氏(林学)、八木健吉氏(農化)、岡本嗣男氏(農工)、竹内俊彦氏(農経)、菅原 庸(水産)が、学生時代の思い出やその当時の社会情勢、卒業後の体験などが語られた。互いの語らいは尽きなかったが、最後に、世話人役の油井秀樹氏(農工)とメロディーの案内により、学歌、三高逍遙歌、琵琶湖周航歌などを斉唱した。閉会は、世話人の山本敬治氏(農経)が、四明会事務局への謝辞とともに、互いの今後の健康を期した挨拶をされ、午後4時に解散した。地下鉄を利用する方には、最寄りの地下鉄の駅まで、マイクロバスが利用できた。

以上、同期生会のながれは、毎年8月発行の「四明会たより」に掲載されているので、簡略に書き留めたが、終わりに、出席者のひとりとして感想を述べたい。

本同期生会はプログラム設定・案内などの作業を四明会事務局が担当していただいて、懇親会などの進行は卒業生がと

り行う同窓会であり、出席者に翌日の京大ホームカミングデーを楽しんでもらおうと、その前日に企画されたものであると理解される。残念ながら、秋の京都は、適当なホテルなど宿泊所を見つけるのがきわめて困難である。遠方の方々が参加しにくい状況にある。しかし、宿泊所を確保して、前夜に同期生会を実施した学科も見られた。農学科では、前日に「KKR京都くに荘」で開催し、全員（11名）が50周年記念同期生会に合流した。林学科では、11月6日の夕方から四条河原町の「ミュンヘン」でS40卒クローネ会を開催、13名が出席した。農業工学科では、毎年メンバーの居住地に近いところで、40年卒同期生会（プラタナス会）を開催しているが、本年は11月6日に本同期生会終了後、亀岡市の「湯の花温泉」で旧交を温めた。水産学科では直前の10月26日に、横浜で二年ぶりの同期会があったばかりであり、また、関東在住の方が多いので、参加者数は3名にとどまった。しかし、A1クラスの方々と、50年ぶりの再会であり、A1クラスの有志の方々と京都駅前で二次会を楽しむことができた。このような企画がなければ、ビールなどを飲み交して語らうこともなかったと思われ、感謝の念でいっぱいである。今後、卒業50周年記念同期生会なるものが、毎年続けられると思われるが、開催年に当たる年次の卒業生

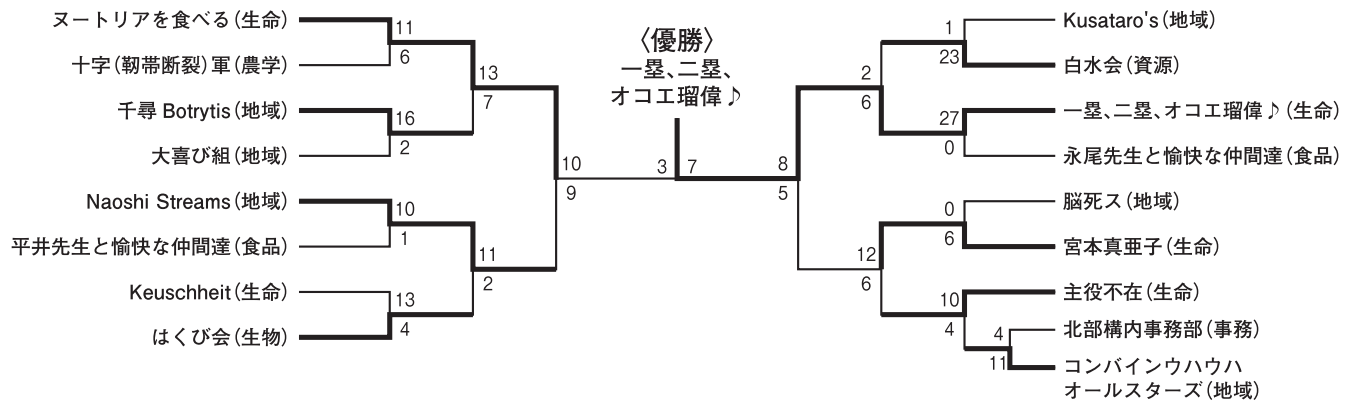
には、学科の同期生会を併せて京都で開催することができれば、出席者も増え、より充実することになるものと思われる。

四明会は旧学科編成に基づいた学科同窓会の連合体であると理解している。少人数の学科同期生会はそれなりに小回りが利いて、密に連絡して懇親を深めることができた。さらに、学科同窓会では、先輩と後輩の結びつきが強く、学生時代は言うまでもなく、卒業後の社会人になってからも、その絆が活用されてきたというメリットもあった。横の繋がりがばかりでなく、縦の繋がりも強かった。さて、農学部は、平成7年に改組された3学科が数年で終わり、平成13年には6学科に再び改組された。学科改組後、新規卒業生が出てから10～16年。学科卒業生の多くは、大学院に進学するものと考えられるが、学科と専攻の組織が直結していない部分もあり、同窓会は学科と専攻の二本立てと複雑である。さらに、大学院重点化により、教員の所属が大学院研究科となり、研究中心、学部教育が二の次となっている感じもしないでもない。同窓会を担当する現任教員は新専攻では見られるが、新学科では見られない。新学科に対してどのような体制なのか心配されるところである。

（水産学科 菅原 庸）



# 平成27年度 四明会主催農学部ソフトボール大会結果報告



農学→農学専攻  
生命→応用生命科学専攻

生物→応用生物科学専攻  
地域→地域環境科学専攻

資源→生物資源経済学専攻  
食品→食品生物科学専攻

## 優勝チームキャプテンからのメッセージ

「一壘、二壘、オコエ瑠偉♪」のキャプテンを務めさせていただきました西岡良将です。27年度四明会ソフトボール大会で優勝できたことを大変嬉しく思います。

応用生命科学科の人々は、研究に対して没頭すると共に、遊ぶ時も一心不乱に取り組みます。今回、チームを決める際にも遊び心を取り入れ、「応用生命ドラフト会議」なるものを行いました。そのような経緯から



生まれた連帯感を武器に、応用生命科学二年連続の四明会ソフトボール大会優勝に関われたこと、そしてチームの一員として試合に出場できたことは、研究室生活の大きな財産になりました。また、試合を重ねていく度に学科間、研究室間の交流という四明会ソフトボール大会の目的も達成できたと自負しております。

最後になりましたが、本大会を運営して下さった四明会事務局の皆様と学生の有志の方々に深く感謝申し上げます。また来年もこの大会で素晴らしい試合ができることを楽しみにしております。

応用生命科学専攻 生体高分子化学分野 修士一回生 西岡 良将

## ソフトボール大会後記

平成27年度ソフトボール大会は、17チームの参加を得て、10月13日・14日・15日・20日・21日・22日の昼休みに農学部グラウンドにおいて開催いたしました。

今年は、お天気に恵まれ予定通り無事に終了することができました。

試合は22日に決勝戦が行なわれ、「一壘・二壘・オコエ瑠偉♪チーム」(応用生命科学専攻)が「ノートリアを食べるチーム」(応用生命科学専攻)を7対3で破り優勝を飾りました。同じ専攻同士の対決で日ごろの練習の成果を出し存分に楽しんでいました。

第三位は「宮本真亜子チーム」(応用生命科学専攻)と「Naoshi Streamsチーム」(地域環境科学専攻)が入賞いたしました。優勝戦終了後表彰式が行なわれ、四明会会長宮川教授から優勝チームには四明会杯・賞状・記念品が、また準優勝及び第三位チームには賞状・記念品がそれぞれ授与されました。来年度は、もっともっと参加チームが増えることを期待します。

今年も事務部の参加が得られ、学生さんたちチームと対等に戦い健闘しました。

最後に、本大会にご協力、ご支援下さった方々にお礼を申し上げます。

(四明会事務)



# 第11回 京都大学ホームカミングデイ テーマ “華”

【日時】平成28年11月5日（土）

【場所】京都大学百周年時計台記念館等

◆講演会 10:00～ ※抽選500名

- ・講師：華道家元池坊 次期家元 池坊専好  
「いのちをいかすいけばなの美と心」
- ・京都/先斗町の芸妓の舞

◆京料理を味わう 12:00～ ※抽選200名

京都吉兆による特別弁当 料金：3,700円事前振込  
京都大学奇術研究会によるマジックショー



## — 同日イベント情報 —

◆クスノキ屋台村 11:00～17:00

時計台前庭のクスノキを中心に飲食等のブースを展開

◆京都大学交響楽団による演奏会 13:15～13:55

◆総合博物館、尊攘堂、附属図書館見学 10:00～16:00

◆清風荘見学

第1回：13時～14時 第2回：14時～15時 第3回：15時～16時

※時計台にて午前9時より先着順に整理券配布 各回40名限定

◆卒業生×在学生 交流イベント 13:30～17:00 ※事前申込

場所：国際科学イノベーション棟5階（シンポジウムホール）

※上記の情報は変更になる場合がございます。

詳細が決まり次第、京都大学同窓会HP・Facebookに掲載いたします。

京都大学同窓会事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学総務部渉外課内  
電話：075-753-2029・5563  
FAX：075-753-2286  
E-mail：alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

↓事前申込は、こちらの同窓会HPから（8月下旬予定）

- ◆京都大学同窓会HP  
<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>
- ◆京都大学同窓会Facebook  
<http://www.facebook.com/KyodaiAlumni>

（京都大学基金のパンフレットを同封していますのでご覧ください）

## 農学部・農学研究科学生概要

### 学生等数

#### (1) 学部

(平成28年5月1日現在)

学部学生					科目等履修生	特別聴講学生	合計
1年次	2年次	3年次	4年次	計			
319	318	320	385	1,342	9	1	1,352

#### (2) 大学院

修士課程			博士後期課程				科目等履修生(院)	合計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計		
336	358	694	65	73	127	265	2	961

#### (3) 研究生等

研究生(院)	短期交流学生(院)	特別研究学生(院)	研修員
15	1	11	11

### 入学状況

#### (1) 学部

(平成28年度)

入学定員	志願者数			入学者数		
	男	女	計	男	女	計
300	562	305	867	214	96	310

#### (2) 大学院

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	277	127	404	218	99	317
博士後期課程	90	49	11	60	46	10	56

### 入学試験合格者最高点・最低点(総点) (平成28年度)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	852.43	658.46	704.79

### 学部・大学院卒業生・修了者数等

#### (1) 学部卒業生

区分	平成27年度	累計
旧制(昭和23~昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	304	19,637
合計	304	23,029

#### (2) 大学院修了者数

修士課程	
平成27年度	累計
277	9,674

#### (3) 博士学位授与者数

区分		平成27年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	52	2,181
	論文提出者	16	2,834
合計		68	5,656

## 学部・大学院卒業者・修了者等の産業別就職状況

(平成28年3月卒業者)

産 業	区 分	学 部	
		男	女
製造業	農・林・漁業		
	食料品・飲料・たばこ		3
	繊維工業		
	化学工業・石油	1	2
	鉄鋼業・金属	2	
	機械・電気		
	その他	2	
サービス業	電力・ガス	1	
	情報通信業・運輸業	4	4
	卸売・小売業	1	2
	金融・保険業	6	3
	学術研究、専門・技術	1	
	宿泊・飲食業	1	1
	その他	6	1
教育	学校教育		2
	学習支援業	1	1
公務	国家公務	2	2
	地方公務	5	4
	上記以外	1	1
	男子計	34	26
総合計		60	

(平成27年度修了者・研究指導認定退学者)

産 業	区 分	修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女
製造業	農・林・漁業	1			1
	食料品・飲料・たばこ	31	14	1	1
	繊維工業	4	2		
	化学工業・石油	22	13	2	1
	鉄鋼業・金属		1		
	機械・電気	1	2		
	その他	15	12		
サービス業	電力・ガス	2	3		
	情報通信業・運輸業	9	4		
	卸売・小売業	8	4	1	1
	金融・保険業	16	7	1	
	学術研究、専門・技術	1	2	3	
	宿泊・飲食業		1		
	その他	12	13	1	
教育	学校教育	1		7	3
	学習支援業				
公務	国家公務	5	7	1	
	地方公務	6	2	1	
	上記以外	3	4	5	2
	男子計	137	91	23	9
総合計		228		32	

外国人留学生国別一覧 (平成28年5月1日現在)

国別留学生数

国名	国費			私費			合計				
	学部学生	修士課程	博士課程	学部学生	修士課程	博士課程	学部学生	修士課程	博士課程	研究生等	合計
アフガニスタン					2				2		2
イラン			1		1				1		1
インド			1								1
インドネシア		1	3	1	12	11			13	14	29
エジプト							1		0	0	1
エチオピア					1				1	0	1
オーストラリア					1				1	0	1
カンボジア	1	1							1	1	2
ケニア	2				2				4	0	4
コロンビア						1			0	1	1
ジンバブエ			1						0	1	1
スペイン			1						0	1	1
スリランカ			2						0	2	2
タイ	1	1	1		4	2			5	3	8
タンザニア			1		1				1	1	2
ナイジェリア					2				2	0	2
ハイチ					1				1	0	1
パラグアイ						1			0	1	1
バングラデシュ	3	3							3	3	6
フィリピン			1			1			0	2	3
フランス							2		0	0	2
ベトナム					1		1		1	1	3
ベルギー					1				1	0	1
マダガスカル			1						0	1	1
マレーシア	1				1	4			1	4	6
ミャンマー		2	5		2	1			4	6	10
ラオス		1							1	0	1
英国					1				1	0	1
韓国	4			4	3	4			3	4	21
台湾					11	2			11	2	15
中国		1	5		32	25			33	30	84
米国			1						0	1	1
総計	5	12	29	2	79	52	16	169	91	81	217

## 教 員 人 事

平成27年9月30日	本間 香貴	退職	農学専攻	講師
	高橋 慎吾	任期満了	「カゴメ」トマトディスカバリーズ講座	特定助教
平成27年10月1日	橋本 渉	昇任	食品生物科学専攻 品生産工学講座 生物機能変換学分野	教授
	小杉賢一朗	昇任	森林科学専攻 緑地環境保全学講座 山地保全学分野	教授
平成27年10月24日	田口 標	死亡	生物資源経済学専攻 農企業経営情報学講座	助教
平成27年12月31日	小泉 幸夫	退職	応用生命科学専攻	助教
平成28年1月1日	森 直樹	昇任	応用生命科学専攻 応用生化学講座 化学生態学分野	教授
	村田 功二	昇任	森林科学専攻 生物材料工学講座 生物材料設計学分野	講師
平成28年1月31日	工藤 春代	任期満了	食と農の安全・倫理講座（寄附）	特定准教授
	鬼頭 弥生	任期満了	食と農の安全・倫理講座（寄附）	特定助教
平成28年2月1日	MONTANO MOSCOSO. Javier Eduardo	採用	地域環境科学専攻 生産生態科学講座 熱帯農業生態学分野	特定助教
平成28年2月29日	安藤 晃規	退職	学際融合教育研究推進センター 生理化学研究ユニット	特定助教
平成28年3月1日	安藤 晃規	採用	応用生命科学専攻 応用微生物学講座 発酵生理及び醸造学分野	助教
	杉村 和紀	採用	森林科学専攻 生物材料機能学講座 複合材料化学分野	助教
	伊藤 淳史	昇任	生物資源経済学専攻 比較農史農学論講座 比較農史学分野	准教授
	松井 徹	併任	附属牧場長	
平成28年3月31日	築山 拓司	退職	農学専攻	助教
	桂 圭佑	退職	附属農場	助教
	祝前 博明	定年退職	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座	教授
	佐久間正幸	定年退職	応用生物科学専攻 植物保護科学講座	教授
	奥野 哲郎	定年退職	応用生物科学専攻 植物保護科学講座	教授
	河原 太八	定年退職	応用生物科学専攻 資源植物科学講座	准教授
	北川 政幸	定年退職	附属牧場	准教授
	鯨坂 哲朗	定年退職	応用生物科学専攻 海洋微生物学講座	助教
平成28年4月1日	富永 達	併任	附属農場長	
	梅津千恵子	採用	生物資源経済学専攻 国際農林経済学講座 地域環境経済学分野	教授
	高野 義孝	昇任	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 植物病理学分野	教授
	小杉 緑子	昇任	地域環境科学専攻 生物環境科学講座 森林水文学分野	教授
	寺内 良平	採用	応用生物科学専攻 資源植物科学講座 栽培植物起原学分野	教授
	大門 高明	採用	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 昆虫生理学分野	教授
	田尾龍太郎	併任	国際高等教育院 園芸科学講座 果樹園芸学分野	教授
	宮下 正弘	併任	国際高等教育院	准教授
	谷口 幸雄	昇任	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座 動物遺伝育種学分野	准教授
	星野洋一郎	採用	附属牧場	助教
	野村 亘	採用	食品生物科学専攻 食品健康科学講座 食品分子機能学分野	特定助教
平成28年5月1日	竹内 道樹	採用	産業微生物学講座（寄附）	特定助教
	日比 慎	昇任	産業微生物学講座（寄附）	特定准教授

## 京都大学農学部教育研究基金の醸金・事業状況のご報告

会員の皆様には平成27年度も本基金に多くの醸金をいただき誠にありがとうございます。収支は下記の通りです。昨年度より在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと大学院生の渡航援助を強化しております。その結果として3名の留学支援を加えた17名を国際研究集会等に派遣することができました。「芦生研究林（向山）」は平成24年度に未来農業国際研究財団からご寄附いただいた山林維持のために使用しているものです。なお昨年より、研究科国際交流推進後援会が実施していた留学生のための交流行事（もちつき、サッカー大会等）を本基金の事業に含め、広くご支援を募るために一口あたりの寄附額を小さくしております。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

一方、附属農業基金につきましては、昨年度も62件のご寄附をいただきました。心よりお礼申し上げます。冒頭のごあいさつの中に記しましたように、おかげさまでたいへん立派な施設ができましたが、移転に際して実験試料を保蔵する器機を緊急に整備する必要があり早速一部を使用させていただきました。施設・設備の充実や周辺環境の整備はこれからも時間をかけて進めていく必要があります。今後もご支援よろしくお願いいたします。

京都大学がおかれている厳しい財政状況の中、このように皆様からご支援をいただけるのは誠に心強く、たいへんありがたく存じます。引き続き強力なお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成28年8月

京都大学農学部長・農学研究科長 宮川 恒

### 農学部教育研究基金 収支（平成17～27年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成17	370	10,339,000	—	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	2	440,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	6	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	5	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	7	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	6	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	18	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	14	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	8	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	14	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	39	2,111,951	100,096,684	
（累計）	1,540	111,488,281	119	11,391,597	100,096,684	

### 27年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	1,150,000	詳細は下欄参照
	留学支援助成金支給	370,000	詳細は下欄参照
	芦生（向山）維持管理費	100,000	
	国際交流室行事用	491,951	
	計	2,111,951	

平成27年度国際集会等参加助成金一覧

氏名	学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
Erfaneh Sharifi	博士2回生	第36回国際水圏環境工学会世界大会	100,000	オランダ
Rahman Anisur	博士3回生	EFITA/WCCA/CIGR2015/Gonference	100,000	ポーランド
森本 拓也	博士2回生	XIV Eucarpia Symposium on Fruit.Breeding and Genetics	100,000	イタリア
Kesinee Jirawanidchakorn	博士3回生	2015年欧州東南アジア研究学会大会	100,000	オーストリア
森 信之介	博士1回生	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015	100,000	アメリカ合衆国
西野 勝俊	博士3回生	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015	100,000	アメリカ合衆国
LUO Wen	博士2回生	中国林業経済学会	50,000	中華人民共和国
八重樫 優太	修士1回生	アジアシミュレーション会議2015	50,000	大韓民国
杉村 和紀	教務補佐員	第4回EPNOE国際多糖学会	100,000	ポーランド
MYA THANDAR TOE	博士3回生	人間安全保障のための持続的な未来に関する国際会議：サステイン2015	50,000	インドネシア
内海 麻衣	修士2回生	2nd Food Structure and functionality forum symposium	50,000	シンガポール
Suyatno	博士2回生	第6回アジア・太平洋先進の生殖医学会議	50,000	インドネシア
金 珉智	教務補佐員	第13回国際肥満学会	100,000	カナダ
石井 統也	修士2回生	16th Food Gollids Gonference	100,000	オランダ
		計	1,150,000	

留学支援助成金

氏名	学年	事項	金額(円)	派遣先
福井 友章	修士1回生	部局間交流協定校への派遣	70,000	国立台湾大学(台湾)
稲垣 郁哉	修士1回生	部局間交流協定校への派遣	180,000	イリノイ大学(アメリカ合衆国)
濱 勇希	修士1回生	部局間交流協定校への派遣	120,000	昆明理工大学(中華人民共和国)
		計	370,000	

京都大学農学部教育研究基金年度別入金者一覧(平成27年度)

(五十音順)

相川 哲	桑島 士郎	高橋 正三	古瀬 浩介
赤松 美紀	蕙愛レディースクリニック	高橋 強	細野 秀和
浅沼善次郎	事務長 鎌田 ゆかり	楯 泰治	堀 雅明
天野 洋	小清水弘一	谷口 道子	松川 聡子
安藤 基成	小谷 明司	栃原 邦匡	松田 史生
池田 昇司	小西秀之助	永野 由祐	松本 武典
石川 晴久	小西 広顕	中濱 一雄	宮川 恒
石永 正隆	駒野 徹	中村 篤	村井 耕二
伊藤あすか	小山 洋一	中本 美穂	森下 泰
井上 樹芳	近藤 直	仲矢 順子	森本 茂俊
内田又左衛門	齋藤 健	西田 律夫	八木 滋雄
江原 学	榊 努	橋本 幾太	矢野 秀雄
太田 泰彦	坂口 守彦	幡新 洋介	山崎 晴子
加藤 智子	佐野 修司	林 清尚	山本 喜一
亀谷 晃	沢田 敏男	原 完	吉永 直子
北島佐紀人	関 雅彦	樋口 隆昌	鷺尾 春一
久馬 一剛	高田 長武	福永 拓也	匿名

以上67名

附属農場基金 収支（平成27年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2	2,069,280	4,400,680	
（累計）	97	6,469,960	2	2,069,280	4,400,680	

27年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出		
木津農場設置（備品）	2,069,280	フリーザー
計	2,069,280	

京都大学農学研究科附属農場基金年度別入金者一覧（平成27年度）

（五十音順）

相川 哲	久馬 一剛	高木 宏	樋口 隆昌
青柳 光昭	桑島 士郎	楯 泰治	平井 英明
赤松 美紀	蕙愛レディースクリニック 事務長 鎌田 ゆかり	田中 廉	福味 廣員
天野 洋	河内 英一	津田 栄三	福永 拓也
安藤 基成	小清水弘一	寺島 勉	福村 武一
石川 晴久	小谷 明司	栃原 邦匡	松本 式典
板野 徹	駒野 徹	中谷 正一	三浦 励一
伊藤あすか	近藤 直	永野 由祐	水落 章
井上 浩	齋藤 健	中村 篤	宮川 恒
岩崎 衛	阪本 貢	中本 美穂	邑本 太一
大河内信夫	佐藤 恒亮	西田 律夫	森本 茂俊
太田 泰彦	佐藤 淳	橋本 幾太	矢澤 進
亀田 宗三	佐野 修司	長谷川 博	矢野 秀雄
亀谷 晃	沢田 敏男	林 清尚	山崎 晴子
川瀬 恒男	関 雅彦	原 完	吉永 直子
北川 政幸		伴野 潔	

以上62名



京都大学農学研究科附属農場 〒619-0218 京都府木津川市城山台4-2-1



## 平成27年度収支決算及び28年度予算

### 収 入 の 部

科 目	平成27年度収支決算		平成28年度収支 予 算 額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	4,930,000 円	5,258,000 円	4,930,000 円
名簿売払代	90,000	90,000	1,800,000
広 告 料	0	0	1,500,000
VISA募集手数料	10,000	2,000	10,000
VISA提携手数料	360,000	309,462	360,000
預 金 利 息	2,000	2,087	2,000
寄付金及び雑収入	5,000	1,500	5,000
小 計	5,397,000	5,663,049	8,607,000
前年度繰越金	17,170,349	17,170,349	16,697,857
合 計	22,567,349	22,833,398	25,304,857

### 支 出 の 部

科 目	平成27年度収支決算		平成28年度収支 予 算 額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷・製本費	0 円	0 円	3,000,000 円
名簿発送費	50,000	47,356	150,000
会報発送費	2,150,000	2,059,824	2,150,000
球技大会費	140,000	130,465	140,000
会 議 費	100,000	61,295	100,000
謝 金	35,000	20,000	30,000
通 信 費	100,000	61,042	100,000
消 耗 品 費	100,000	39,189	100,000
光熱水量及び借料	200,000	221,054	220,000
VISA等手数料等	220,000	170,008	220,000
備 品 費	200,000	0	200,000
人 件 費	3,100,000	3,101,748	3,100,000
雑 費	50,000	0	50,000
予 備 費	0	0	0
小 計	6,445,000	5,911,981	9,560,000
次年度繰越	16,122,349	16,921,417	15,744,857
合 計	22,567,349	22,833,398	25,304,857

\*27年度予算額・決算額と28年度予算額と比較して大きく異なるのは28年度は名簿を発行しない年に当たるため。

# 京都大学農学部四明會会則 (平成20年4月17日 一部改正)

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

## 第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

## 第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。  
会長1名 副会長1名 監事2名  
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。  
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。  
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。  
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

## 第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
- 1 事業計画
  - 2 予算及び決算に関する事項
  - 3 基本財産に関する事項
  - 4 会費に関する事項
  - 5 寄付金その他収入に関する事項
  - 6 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

## 第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収する。
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。

## 平成28年度四明会役員名簿

会 長 宮川 恒  
副 会 長 加納 健司  
監 事 荒井 修亮  
          〃          田中 佑

常任委員	委 員	顧 問 奥村 晃弘
農 学 専 攻 稲村 達也	農 学 科 田中 佑	〃 永井あつ子
森 林 科 学 専 攻 小杉賢一朗	林 学 科 伊勢 武史	_____
応用生命科学専攻 加納 健司	農 芸 化 学 科 森 直樹	四明会事務局 山下恵美子
応用生物学専攻 佐藤 健司 (総務)	農 林 生 物 学 科 海道 真典	〃 三田 久子
地域環境科学専攻 清水 浩	農 業 工 学 科 近藤 直	
生物資源経済学専攻 小田 滋晃	農 林 経 済 学 科 中川聰七郎	
食品生物学専攻 金本 龍平	水 産 学 科 荒井 修亮	
	林 産 工 学 科 築瀬 佳之	
	食 品 工 学 科 大日向耕作	
	畜 産 学 科 熊谷 元	
	熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和	

### ◎事務局より

事務局では名簿の隔年発行(今年は発行年にあたります。11月に発行予定)以外に下記の業務も行っておりますので、お気軽にお申し付けください。

○「培根会(農学部・農学研究科を退官された先生方の懇談会)」  
新年会を含め年4回(4月(観桜会)・7月(納涼会)・10月(観月会)・1月(新年会・12時から)小宴を催します。

今年の納涼会は新附属農場(木津農場)の見学を兼ねて現地で行いました。

平成29年度から納涼会は開催いたしません。

○「卒業50周年記念同期生会」の開催

毎年11月の第1金曜日に「農学部卒業50周年記念同期生会」を開催していましたが、平成21年から京都大学ホームカミングデイ(11月第1土曜日)の前日に開催することになりました。

今年は11月4日(金)に昭和41年卒業生の方々の集いを予定しております。該当される方々への詳細なご案内を9月下旬にお送りさせていただきます。

○「四明会ソフトボール大会」の開催

毎年10月中旬に「農学部グラウンド」において農学部・農学研究科学生及び教職員による親善ソフトボール大会を行っています。

○「新入生保護者懇談会」の開催

平成24年度からの試みで今年5回目です。4月7日入学式当日に行いました。保護者出席人数は158名、40%の出席率でした。

○「京都大学農学部四明会 VISAカード」

現在約500名の方がご利用されていますので、この機会に是非お申し込み下さい。事務局にご一報下されば資料等をお送りいたします。

○農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸甚です。

○「就職について」の講演会

就職活動の一環として、在学生向けに、卒業生OB・OGを招いて、対話集会を実施する予定です。

○今年から「四明会たより」をホームページに掲載

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>

絵はがき  
**京大農学部の風景**  
 京都大学農学部四明会



この度四明会では、名誉教授 上野氏夫氏が描かれた水彩画5点を絵はがきにしました。  
 四明会会費を納入された会員で、ご希望の方に進呈します。お申込みは封書に、返信用封筒（切手82円貼）を入れ、四明会事務局まで（先着順）



旧演習林事務棟  
 (四明会事務局)



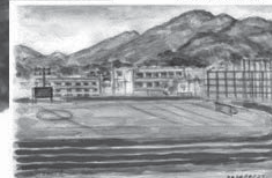
農学研究科附属農場  
 (高槻農場)



農学部正門



農学研究科附属農場 (京都農場)



農学部グラウンド

○絵ハガキの贈呈について

昨年、作成しました、名誉教授上野氏夫氏がお描きになった水彩画（5枚1組）の絵ハガキをご希望の方に贈呈します。（アートポストカラーでの仕上がりです）  
 農学部関連施設をスケッチしたものです。

会費納入者に限りご希望の方に無料配布します。申し込み方法は、封書で返信用封筒（切手82円貼る）を同封のうえ四明会事務局へ申し込んで下さい。  
 なお、京都大学農学部四明会のホームページでカラー版が閲覧できます。

四明会たより（平成28年8月発行）

京都大学農学部四明会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>